

研究タイトル:

英語ライティング、リスニングの効果的な方略指導



氏名: 沢谷 佑輔 / SAWAYA Yusuke E-mail: sawaya@asahikawa-nct.ac.jp

職名: 准教授 学位: 修士(教育学)

所属学会・協会: 全国英語教育学会, 北海道英語教育学会, 全国語学教育学会

キーワード: 外国語教育, 教育工学

技術相談

提供可能技術:

- ・英語ライティング・リスニング指導に関する講演・ワークショップ
- ・国際交流支援
- ・教材開発の支援

研究内容: 効果的なライティング方略、リスニング方略の指導に関する研究

ライティング方略について

近年、英語ライティングにおいては情報発信力の育成のためにより意味内容を重視した指導への転換が求められています。その目的を達成するために学習者には「首尾一貫性(Coherence)」と「結束性(Cohesion)」によって説明される「意味的にまとまりのある」文章を書けるよう指導することが重要です。これまでのライティング方略に関する研究では、優れた書き手が用いる方略と初心者が用いる方略の違いが示されている一方で、学習者が実際に書いた作文の評価との間の関係性は十分に調査されていません。そのため、どのような方略を使うことで「意味的にまとまりのある」作文を書けるようになるのかを解明し、指導に生かすための研究を行っています。

これまでの研究でわかってきている優れた書き手と初心者の書き手の方略の違い

優れた書き手が用いるライティング方略

- ・書き始める前に十分に文章の構成を練る。
- ・自分が表現したい内容を表すより良い表現を求め、休止して考える。

初心者の書き手が用いるライティング方略

- ・一つの内容が終わると書くのをやめ、考えを練る
- ・自分の考えた内容を翻訳するために休止する。

リスニング方略について

最近、外国語の教授法がコミュニケーションを重視したものに变化したことで指導の中でスライドやビデオなどの視聴覚教材が積極的に利用されるようになりました。特に、リスニングにおいては現実社会においては音声の情報に視覚的な情報が付随していることが多いため、音声、視覚の両方の情報を理解できる能力を身に付けさせることが重要です。現在はビデオやスライドなどが用いられた視覚情報と音声情報が同時にされるリスニング課題で、どのようなリスニング方略を用いることが効果的なのかを検討し、指導に生かすための研究を行っています。

提供可能な設備・機器:

名称・型番(メーカー)	